

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-190677

(43)Date of publication of application : 11.07.2000

(51)Int.Cl.

B42F 21/04

B42F 21/06

(21)Application number : 10-369668

(71)Applicant : KING JIM CO LTD

(22)Date of filing : 25.12.1998

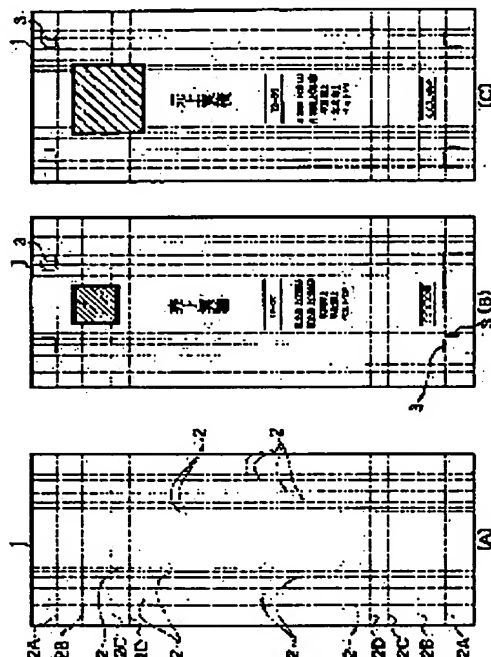
(72)Inventor : KAMEDA TAKANOBU  
KIKUCHI JUNICHI  
KIKUCHI YASUFUMI  
KONDOU RUI

## (54) MOUNTING PAPER FOR PRINTING

## (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To easily form backbones, labels and the like of various sizes.

SOLUTION: A mounting paper 1 for printing is used for printing or handwriting characters and the like for back titles, labels and the like. A plurality of fine perforations 2 not disturbing a printing result are formed preliminarily and overlappingly in compliance with the sizes of backbones, labels and the like. The perforations 2 are so formed as not to run through between the surface and the back. Printing margins are formed around the mounting paper 1 for printing. A bonding layer is formed on the face opposite to the printing face, if necessary.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

20.10.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3461740

[Date of registration]

15.08.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-190677  
(P2000-190677A)

(43) 公開日 平成12年7月11日 (2000.7.11)

(51) Int.Cl.

B 4 2 F 21/04  
21/06

識別記号

F I

B 4 2 F 21/04  
21/06

テマコード (参考)

A  
B

審査請求 未請求 請求項の数 9 OL (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-369668  
(22) 出願日 平成10年12月25日 (1998.12.25)

(71) 出願人 000129437  
株式会社キングジム  
東京都千代田区東神田 2 丁目10番18号  
(72) 発明者 亀田 登信  
東京都千代田区東神田 2 丁目10番18号 株  
式会社キングジム内  
(72) 発明者 菊池 純一  
東京都千代田区東神田 2 丁目10番18号 株  
式会社キングジム内  
(74) 代理人 100090620  
弁理士 工藤 宣幸

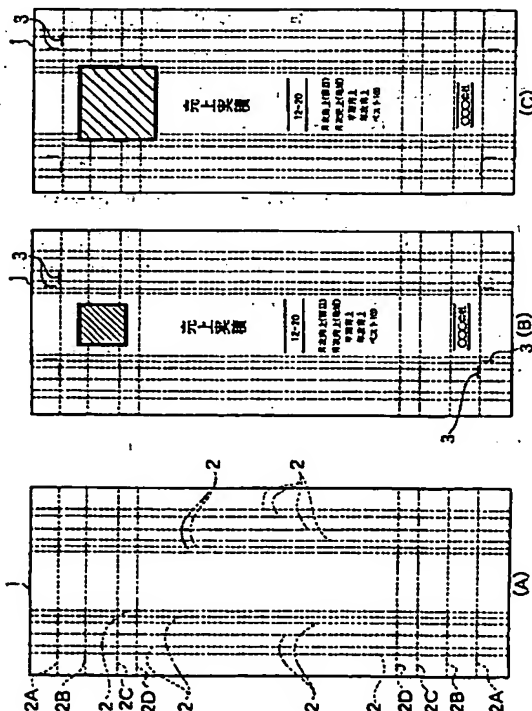
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 印刷用台紙

(57) 【要約】

【課題】 各種の大きさの背表紙やラベル等を容易に作成する。

【解決手段】 背見出しやラベル等を使用するために文字等を印刷又は手書きする印刷用台紙 1 である。印刷結果に支障が無い程度の微細なミシン目 2 を背表紙やラベル等の大きさに合わせて予め重畳的に複数本設けた。ミシン目 2 は表裏面間を貫通しないようにした。印刷用台紙 1 の周囲には印刷しろを設けた。必要に応じて、印刷面と反対の面に接着層を設けた。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 背見出しやラベル等に使用するために文字等を印刷又は手書きする印刷用台紙であって、印刷結果に支障が無い程度の微細なミシン目を、背表紙やラベル等の大きさに合わせて予め重疊的に複数本設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の印刷用台紙において、上記ミシン目が、表裏面間を貫通しないように設けられたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 に記載の印刷用台紙において、

上下方向の一方又は両方に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同寸法となるべく、上記上下方向の一方又は両方にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 4】 請求項 1 又は 2 に記載の印刷用台紙において、

左右方向の一方又は両方に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同寸法となるべく、上記左右方向の一方又は両方にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 5】 請求項 1 又は 2 に記載の印刷用台紙において、

上記上下左右の四方向に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同寸法となるべく、上記上下左右の四方向にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 6】 請求項 3 に記載の印刷用台紙において、上記上下方向の一方又は両方に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同寸法となるべく、上記上下方向の一方又は両方に、1 ないし複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 7】 請求項 4 に記載の印刷用台紙において、上記左右方向の一方又は両方に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同寸法となるべく、上記左右方向の一方又は両方に、1 ないし複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 8】 請求項 1 又は 2 に記載の印刷用台紙において、

上記上下左右の四方向に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同寸法となるべく、上記上下左右の四方向に、複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項 9】 請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の

印刷用台紙において、

印刷面と反対の面に接着層を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等のラベルや、ファイルの背見出し等の、分類、内容表示等に用いる印刷用台紙に関し、特に単一の台紙で複数の用途に対応し得る印刷用台紙に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 ファイルにおいては、その中に収納したデータの内容を表示したり、複数のファイルを分類、整理したりする場合等において、背見出しを設けることがある。また、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等においても、ファイルと同様に、内容表示や分類、整理のためにラベルやインデックス等を設けることがある。

【0003】 これら背見出しやラベルの内容は手書きで記載することもあるが、プリンタによって印刷することもある。プリンタによる場合は、通常の大きさの用紙に印刷してから、背見出しやラベルの大きさに切り取っていた。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、通常の用紙にプリンタで必要な情報を印刷した後にその用紙を背表紙等の大きさに切り取る作業は単純であるが、繁雑である。

【0005】 特に、大量の情報をファイル等にまとめる場合は背表紙等を大量に作成する必要があるが、用紙を 1 つ 1 つ背表紙等の大きさに切るのは、繁雑で作業性が悪いという問題点がある。

【0006】 本発明は上記課題を解決するためになされたもので、各種の大きさの背表紙等を容易に作成することができる印刷用台紙を提供することを目的とする。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために、第 1 の発明に係る印刷用台紙は、背見出しやラベル等に使用するために文字等を印刷又は手書きする印刷用台紙であって、印刷結果に支障が無い程度の微細なミシン目を、背表紙やラベル等の大きさに合わせて予め重疊的に複数本設けたことを特徴とする。

【0008】 上記構成により、印刷用台紙には、内容表示や分類等のための情報を印刷したり手書きしたりする。このとき、ミシン目は微細なので、印刷や手書きした場合にその印刷面等にミシン目の筋等が入ることはなく、印刷結果に支障が無い。印刷用台紙に必要な情報を印刷や手書きしたあとは、重疊的に複数本設けられたミシン目の中から、背表紙やラベル等の大きさに沿ったミシン目を特定してその部分から折り曲げて切り取る。こ

れにより、所定大きさの背表紙等を作成する。

【0009】第2の発明に係る印刷用台紙は、上記第1の発明に係る印刷用台紙において、上記ミシン目が、表裏面間を貫通しないように設けられたことを特徴とする。

【0010】上記構成により、ミシン目が表裏面間を貫通していないため、例えば表面に印字や手書きした場合、インクがミシン目から裏面に滲むことがなくなる。このため、表面に印字や手書きした内容に不具合等がある場合、裏面に印字等をやり直すことができる。

【0011】第3の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上下方向の一方又は両方に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上記上下方向の一方又は両方にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする。

【0012】上記構成により、印刷用台紙の上下方向にその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0013】第4の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、左右方向の一方又は両方に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上記左右方向の一方又は両方にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする。

【0014】上記構成により、印刷用台紙の左右方向にその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0015】第5の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記上下左右の四方向に、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上記上下左右の四方向にミシン目を付けて印刷しろを設けたことを特徴とする。

【0016】上記構成により、印刷用台紙の上下左右の四方向ににその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0017】第6の発明に係る印刷用台紙は、上記第3の発明に係る印刷用台紙において、上記上下方向の一方又は両方に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上記上下方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする。

【0018】上記構成により、上下方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイ

ズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷され、上下方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0019】第7の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記左右方向の一方又は両方に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上記左右方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする。

【0020】上記構成により、左右方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷され、左右方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0021】第8の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記上下左右の四方向に、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上記上下左右の四方向に、複数のミシン目を付けて印刷しろをさらに設けたことを特徴とする。

【0022】上記構成により、上下左右の四方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷され、上下左右の四方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0023】第9の発明に係る印刷用台紙は、上記第1乃至8のいずれかの発明に係る印刷用台紙において、印刷面と反対の面に接着層を設けたことを特徴とする。

【0024】上記構成により、印刷用台紙に必要な情報を印刷や手書きして所定大きさに切り取ったあと、裏面の接着層によって所定場所に貼付する。

【0025】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図1を参照しながら説明する。なお、図1(A)は何も印刷していない印刷前の印刷用台紙1を示している。図1

(B)は幅3cmの縦置A4のファイルの背表紙を印刷した印刷用台紙1を示している。図1(C)は幅5cmの縦置A4のファイルの背表紙を印刷した印刷用台紙1を示している。

【0026】本実施形態に係る印刷用台紙1は、図示するように、ファイルの背表紙として用いる台紙である。この印刷用台紙1の寸法は、例えば縦置A4ファイルの最も大きいサイズに対応して設定されている。すなわち、適用対象としている複数のファイルの中で最大のものの背表紙よりも少し大きく形成され、最大の背表紙と同一寸法の位置に最外側のミシン目2Aが設けられてい

る。このミシン目 2 A の外側が印刷しろとなっている。また、そのミシン目 2 A の内側には、適用対象の複数のファイルの背表紙の大きさに対応した位置にミシン目 2 が複数本設けられている。

【0027】ミシン目 2 A の外側に印刷しろを設けることで、最大サイズの背表紙に合わせて印刷したときに背表紙の縁部付近で印刷されない部分が生じるのを防止している。また、最大サイズ以外の小さい背表紙の場合は、その背表紙の大きさに対応したミシン目 2 の外側が印刷しろとなる。最外側のミシン目 2 A の内側に配設される複数本のミシン目 2 は、各種の大きさの背表紙を重ね合わせたように、重疊的に配設されている。具体的に、図 1 (A) において横方向のミシン目 2 のうち、ミシン目 2 A が縦置き A 4 ファイルに、ミシン目 2 B が縦置き B 5 ファイルに、ミシン目 2 C が横置き A 4 ファイルに、ミシン目 2 D が横置き B 5 ファイルにそれぞれ対応している。縦方向のミシン目 2 は、各種の厚さのファイルに応じた寸法に設定される。

【0028】各ミシン目 2 は、印刷用台紙 1 の裏面（印刷される面と反対側の面）にまで穴が貫通しないように設定されている。さらにこのミシン目 2 としては、マイクロミシン目といわれる微細なミシン目が用いられる。このミシン目 2 を貫通穴にしないことで、印刷又は手書きされた文字やデザイン等のインクが反対側の面にまで滲まないようになっている。これにより、表面（最初に印刷しようとする面）への印刷等に不具合があった場合に、裏面（表面あるいは最初に印刷しようとする面の反対面）を使用して、印刷をやり直すことができるようになっている。また、ミシン目 2 をマイクロミシン目とすることにより、ミシン目 2 を覆って印刷された文字等にミシン目 2 の筋が入って文字等が見えにくくならないようになっている。

【0029】印刷用台紙 1 には種々の情報が印刷される。図 1 (B) (C) の例では、上部にマーク、その下側にファイルに収納される資料の内容、更にその下側にファイル全体の中での本ファイルの分類番号等が印刷されている。これ以外に、配列順番が決まっている複数のファイルの順番を特定するための一連のデザインや記号等が印刷される場合もある。さらに、大きな 1 枚の風景写真等をそれぞれのファイルの大きさに分割し、ファイルの配列順番に合わせて印刷される場合もある。

【動作】以上のように構成された印刷用台紙 1 では、次のようにして背表紙が作成される。

【0030】印刷装置においては、印刷する文字、記号、風景等の情報を入力し、それらのレイアウトを特定する。さらに、ファイルの背表紙の大きさを特定する。例えば、図 1 (B) の幅 3 cm の A 4 縦置きのファイルや、図 1 (C) の幅 5 cm の A 4 縦置きのファイル等に合わせて背表紙の大きさを特定する。

【0031】印刷用台紙 1 は印刷装置にそのセンターを

合わせて装着される。これにより、印刷する文字等が、指定したレイアウトでかつファイルの背表紙の大きさに合わせた大きさで、印刷用台紙 1 に印刷される。この印刷において、切り取りの目安となるマーク（いわゆるトンボ）3 が印刷される。このトンボ 3 は、印刷用台紙 1 が必要な大きさに切り取られる際に除去されて、背表紙側に残らないようになっている。

【0032】印刷し終わった印刷用台紙 1 は、トンボ 3 の部分に位置するミシン目に沿って折り曲げられる。これにより、印刷用台紙 1 は折り曲げたところから切れて、対象ファイルの背表紙ができあがる。この背表紙はファイルの背表紙用のポケット部に挿入される。

【0033】なお、手書きで文字等を印刷用台紙 1 に書き込む場合には、印刷用台紙 1 のセンターに沿ってファイル内容等の情報を記載する。次いで、ファイルの背表紙の大きさに沿ったミシン目 2 がら折り曲げて切り取る。これにより、対象であるファイルの背表紙ができあがる。

【0034】また、印刷や手書きした内容に不具合が生じた場合は、その印刷用台紙 1 の裏面を使用する。この場合、ミシン目 2 が貫通穴でないので、インクが反対の面に滲むことがなく、新しい印刷用台紙 1 と同様にして使用することも可能である。

【効果】以上のように、印刷用台紙 1 に必要な情報を印刷又は手書きした後に、印刷用台紙 1 をファイルの背表紙の大きさに合わせたミシン目 2 で切り取るので、単一の印刷用台紙 1 で種々の大きさのファイルの背表紙を容易に作成することができる。

【0035】ミシン目 2 は微細なので、印刷や手書きした部分に印刷結果に支障を来すようなミシン目 2 の筋が入ることはない。このため、作成してファイルに挿入した後の背表紙は外観上、ミシン目 2 のない通常の背表紙と比較しても、外観上何ら変わりがない。

【0036】ミシン目 2 は印刷用台紙 1 の表裏面間を貫通していないため、表面に印刷したインクがミシン目から裏面に滲むことがなくなる。このため、表面に印字や手書きした内容に不具合等がある場合、裏面に印字等やり直すことができる。

【0037】印刷用台紙 1 には印刷しろを設けたので、印刷用台紙 1 の端部又は縁部付近で印刷内容が途切れてしまうことがなくなり、印刷用台紙 1 全体にわたったデザインを施すことができる。

#### 【変形例】

(1) 上記実施形態では、印刷用台紙 1 の中心を基準として、上下に縦置き A 4、縦置き B 5、横置き A 4、横置き B 5 の寸法に合わせたミシン目 2 A、2 B、2 C、2 D を設けると共に、横方向に適宜ファイルの厚さに合わせたミシン目 2 を設けたが、図 2 に示すように、横方向両側に等間隔（例えば 10 mm 間隔）に広がるミシン目 2 を設けてもよい。

【0038】また、縦方向及び横方向のミシン目2を、印刷用台紙1の端部を基準にして配設するようにしてもよい。図3に示すように、上下に設けられる横置B5、横置A4、縦置B5、縦置A4の寸法に合わせたミシン目2A、2B、2C、2Dを、印刷用台紙1の下端部を基準にして上方に広がるように配設してもよく、その逆に印刷用台紙1の上端部を基準にして下方に広がるように配設してもよい。

【0039】さらに、印刷用台紙1の横方向又は縦方向の一端部（図3においては左端部又は下端部）を基準に他端方向（図3においては右方向又は上方向）に広がるように配設してもよい。

【0040】ミシン目2が左端部を基準に右方向に広がる場合は、図2のミシン目2が例えば10mm間隔で両側へ広がるのに対して、図3では例えば20mm間隔で右側へ広がる。ミシン目2が右端部を基準に左方向に広がる場合も同様である。

【0041】ミシン目2が下端部を基準に上方向に広がる場合は、図2のミシン目2が例えば14mm、20mm、20mm間隔で上下へ広がるのに対して、図3では例えば28mm、40mm、40mm間隔で上側へ広がる。ミシン目2が上端部を基準に下方向に広がる場合も同様である。

【0042】さらに、これらのパターンを組み合わせてもよい。即ち、ミシン目2が印刷用台紙1の中央部から上下左右へ広がるパターンと、上下左右の一方から他方へ広がるパターンとを組み合わせてもよい。これ以外の組み合わせパターンでもよい。この場合、例えば、背表紙のパターンと後述するCD等のラベルのパターンとを組み合わせるようにしてもよい。

【0043】これらの組み合わせにおいては、それぞれのパターンを区別するために、各パターンのミシン目を色分けしたり、ハッチングを入れたりしてもよい。

【0044】以上の場合も、前記実施形態同様の作用、効果を奏することができる。

(2) 上記実施形態では、ファイルの背表紙を作成する場合について説明したが、本発明はこれに限らず、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等の表紙、分類表、ラベル等を作成する場合にも適用することができ、この場合にも上記同様の作用、効果を奏することができる。なおこの場合は、図4に示すように、CD等のうち最も大きいものに合わせて印刷用台紙が作成され、ミシン目がCD、MD、FD、MO、カセットテープ等のそれぞれの寸法に対応した位置に設けられる。具体的には、表紙や分類表等としてケースに装着される場合と、ラベルとしてメディアに直接に貼付される場合とがあるため、それぞれの寸法に合わせてミシン目が設けられる。図4においては、印刷用台紙の中央下端部を基準にして上方の周囲へ広がるようにミシン目が配設されており、そのうちミシン目11A、11BはCDケースに装

着される表紙等であって、背表紙部分を含むものに対応する縦横のミシン目である。同様に、ミシン目12A、12BはCDケースに装着される表紙等であって、背表紙部分を含まないものに対応する縦横のミシン目である。ミシン目13A、13Bはカセットテープのケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目14A、14BはMOケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目15A、15BはMO又はFD自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。ミシン目16A、16BはMDケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目17A、17B（なお、ミシン目17Bはミシン目16Bの一部となっている。）はMD自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。ミシン目18A、18Bはカセットテープ自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。

【0045】この印刷用台紙の裏面（印刷面と反対側の面）には、貼付用ラベルとしての機能を持たせるために接着層が設けられる。なお、表紙や分類表等として使用する場合は接着層を必要としないので、表紙等として使用する場合と、ラベルとして使用する場合とで分けてもよい。即ち、表紙等としてのみ使用する場合には図5に示すようにミシン目を設けて接着層を設けず、ラベルとしてのみ使用する場合には図6に示すようにミシン目を設けると共に接着層を設けるようにしてもよい。

【0046】これにより、印刷用台紙は、必要な情報が印刷や手書きされたあと、CD等の大きさに合わせてミシン目で切り取られ、CD等のケースに装着されたり、裏面に設けられた接着層によってカセットテープ等に直接貼り付けられたりする。

【0047】また、これ以外にも、箱、袋、ノート等の、物や情報を整理、収納するためのものであれば、本発明を適用することができ、前記実施形態同様の作用、効果を奏することができる。

【0048】さらにこの変形例の場合もミシン目を、印刷用台紙の中央を基準に周囲へ広がるように配設したり、一端部を基準に他端部へ広がるように配設したりしてもよい。

(3) 上記実施形態では、印刷用台紙1にファイルの内容や分類のための情報等を印刷したが、これ以外に、A4ファイルの場合の印刷基準位置、B5ファイルのための印刷基準位置、左詰印刷の場合の印刷基準位置等を示すマーク等の他の情報を印刷してもよい。

(4) 上記実施形態では、ファイルの背表紙となる大きさを表すものとして、切り取りの目安となるトンボ3のみを印刷したが、このトンボ3と共に、全体の大きさを示す枠線を印刷してもよい。

【0049】

【発明の効果】以上、詳述したように本発明によれば、次のような効果を奏する。

(1) 印刷用台紙に微細なミシン目を背表紙等の大きさに合わせて重畳的に複数本設け、必要な情報を印刷又は手書きした後に、印刷用台紙をファイルの背表紙の大きさに合わせたミシン目で切り取るので、単一の印刷用台紙で種々の大きさのファイルの背表紙やCD等のラベルその他を容易に作成することができるようになる。

(2) ミシン目は微細で、印刷や手書きした部分にミシン目の印刷結果に支障を来すような筋が入ることはないので、作成後の背表紙やラベル等は、ミシン目のない通常の背表紙等と比較しても、外観上何ら変わらない。

(3) ミシン目は印刷用台紙の表裏面間を貫通していないため、インクがミシン目から裏面に滲むことがなく、印刷用台紙の表面で印刷ミスをした場合でも、裏面に印字等をやり直すことができる。

(4) 印刷用台紙には印刷しろを設けたので、印刷用台紙の端部又は縁部付近で印刷内容が途切れてしまうことがなくなり、印刷用台紙全体にわたったデザインを施すことができる。

(5) 印刷用台紙の裏面に接着層を設けたので、ラベル等として任意の場所に貼り付けることができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】何も印刷していない印刷前の印刷用台紙及び背表紙の内容を印刷した印刷用台紙を示す模式図である。

【図2】第1の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図3】第2の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

10 【図4】第3の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

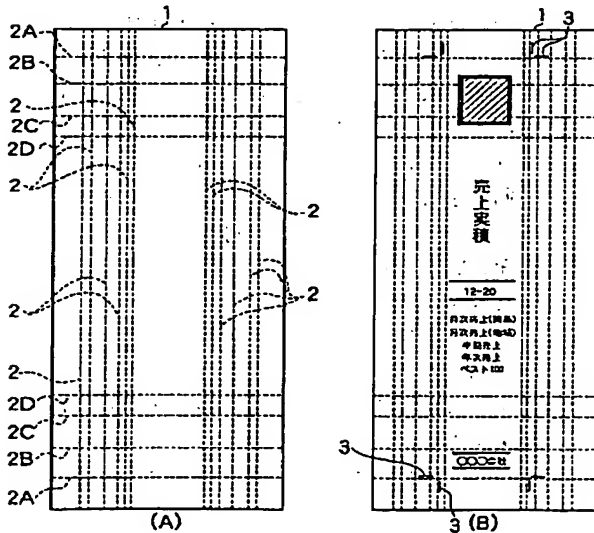
【図5】第4の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図6】第5の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

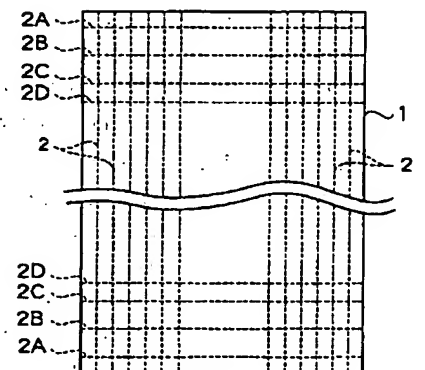
#### 【符号の説明】

1：印刷用台紙、2：ミシン目、3：トンボ。

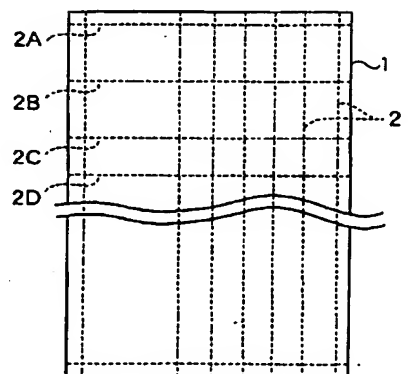
【図1】



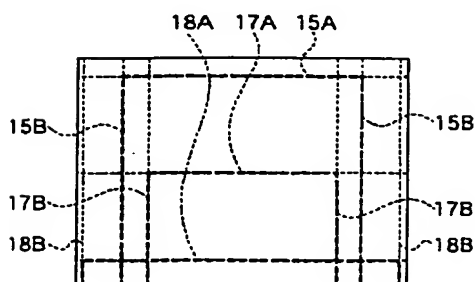
【図2】



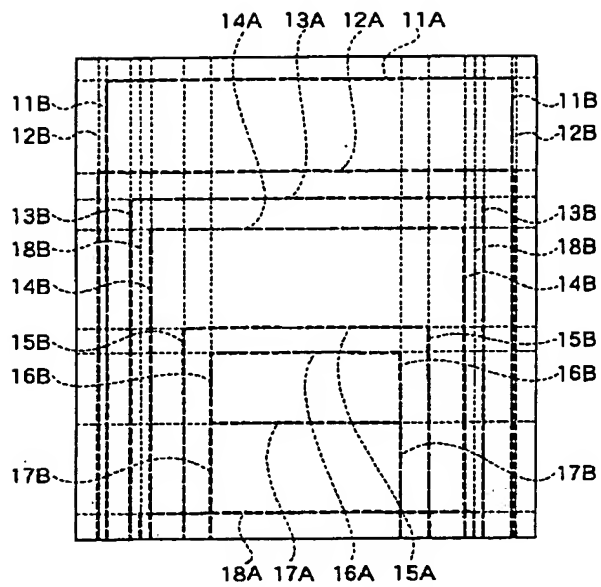
【図3】



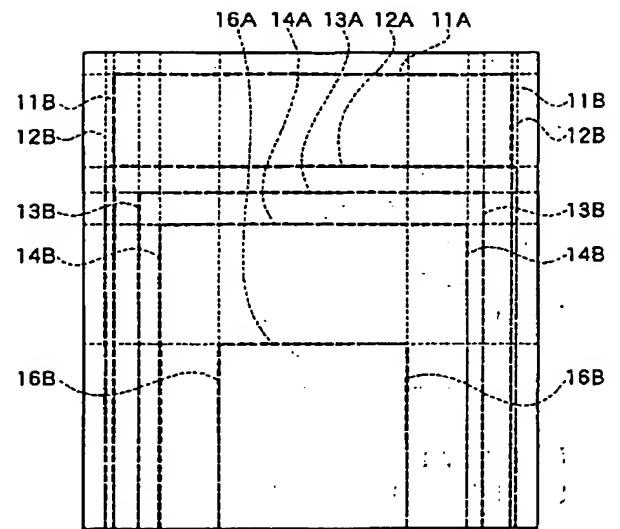
【図6】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 菊地 康文  
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株  
式会社キングジム内

(72)発明者 近藤 壘  
東京都千代田区東神田2丁目10番18号 株  
式会社キングジム内

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第4区分

【発行日】平成13年8月28日(2001.8.28)

【公開番号】特開2000-190677(P2000-190677A)

【公開日】平成12年7月11日(2000.7.11)

【年通号数】公開特許公報12-1907

【出願番号】特願平10-369668

【国際特許分類第7版】

B42F 21/04

21/06

【FI】

B42F 21/04

A

21/06

B

【手続補正書】

【提出日】平成12年10月20日(2000.10.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】印刷用台紙

【特許請求の範囲】

【請求項1】背見出しやラベル等に使用するために文字等を印刷又は手書きする印刷用台紙であって、印刷結果に支障が無い程度の微細なミシン目を、背表紙やラベル等の大きさに合わせて予め重疊的に複数本設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項2】請求項1に記載の印刷用台紙において、上記ミシン目が、表裏面間を貫通しないように設けられたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項3】請求項1又は2に記載の印刷用台紙において、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上下方向の一方又は両方にミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項4】請求項1又は2に記載の印刷用台紙において、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、左右方向の一方又は両方にミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項5】請求項1又は2に記載の印刷用台紙において、

上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上下左右の四方向にミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項6】請求項1乃至3のいずれか1項に記載の印刷用台紙において、

切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上下方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項7】請求項1、2又は4に記載の印刷用台紙において、

切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、左右方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項8】請求項1、2又は5に記載の印刷用台紙において、

切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上下左右の四方向に、複数のミシン目を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項9】請求項1乃至8のいずれか1項に記載の印刷用台紙において、

印刷面と反対の面に接着層を設けたことを特徴とする印刷用台紙。

【請求項10】請求項1乃至9のいずれか1項に記載の印刷用台紙において、

上下方向のある1組のミシン目の間隔、又は上下方向いずれか一方のミシン目とこれに相対する方向の上下辺のいずれか一方との間隔は、上記背見出しやラベル等の高さ方向のサイズに対応することを特徴とする印刷用台紙。

【請求項11】請求項1乃至9のいずれか1項に記載

の印刷用台紙において、  
左右方向のある1組のミシン目の間隔、又は左右方向い  
ずれか一方のミシン目とこれに相対する方向の左右辺の  
いずれか一方との間隔は、上記背見出しやラベル等の幅  
方向のサイズに対応することを特徴とする印刷用台紙。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等のラベルや、ファイルの背見出し等の、分類、内容表示等に用いる印刷用台紙に関し、特に単一の台紙で複数の用途に対応し得る印刷用台紙に関するものである。

【0002】

【従来の技術】ファイルにおいては、その中に収納したデータの内容を表示したり、複数のファイルを分類、整理したりする場合等において、背見出しを設けることがある。また、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等においても、ファイルと同様に、内容表示や分類、整理のためにラベルやインデックス等を設けることがある。

【0003】これら背見出しやラベルの内容は手書きで記載することもあるが、プリンタによって印刷することもある。プリンタによる場合は、通常の大きさの用紙に印刷してから、背見出しやラベルの大きさに切り取っていた。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、通常用紙にプリンタで必要な情報を印刷した後にその用紙を背表紙等の大きさに切り取る作業は単純であるが、繁雑である。

【0005】特に、大量の情報をファイル等にまとめる場合は背表紙等を大量に作成する必要があるが、用紙を1つ1つ背表紙等の大きさに切るのは、繁雑で作業性が悪いという問題点がある。

【0006】本発明は上記課題を解決するためになされたもので、各種の大きさの背表紙等を容易に作成することができる印刷用台紙を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、第1の発明に係る印刷用台紙は、背見出しやラベル等に使用するために文字等を印刷又は手書きする印刷用台紙であって、印刷結果に支障が無い程度の微細なミシン目を、背表紙やラベル等の大きさに合わせて予め重疊的に複数本設けたことを特徴とする。

【0008】上記構成により、印刷用台紙には、内容表示や分類等のための情報を印刷したり手書きしたりする。このとき、ミシン目は微細なので、印刷や手書きした場合にその印刷面等にミシン目の筋等が入ることはなく、印刷結果に支障が無い。印刷用台紙に必要な情報を印刷や手書きしたあとは、重疊的に複数本設けられたミ

シン目の中から、背表紙やラベル等の大きさに沿ったミシン目を特定してその部分から折り曲げて切り取る。これにより、所定大きさの背表紙等を作成する。

【0009】第2の発明に係る印刷用台紙は、上記第1の発明に係る印刷用台紙において、上記ミシン目が、表裏面間を貫通しないように設けられたことを特徴とする。

【0010】上記構成により、ミシン目が表裏面間を貫通していないため、例えば表面に印字や手書きした場合、インクがミシン目から裏面に滲むことがなくなる。このため、表面に印字や手書きした内容に不具合等がある場合、裏面に印字等をやり直すことができる。

【0011】第3の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上下方向の一方又は両方にミシン目を設けたことを特徴とする。

【0012】上記構成により、印刷用台紙の上下方向にその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0013】第4の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、左右方向の一方又は両方にミシン目を設けたことを特徴とする。

【0014】上記構成により、印刷用台紙の左右方向にその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0015】第5の発明に係る印刷用台紙は、上記第1又は2の発明に係る印刷用台紙において、上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズのものよりも大きく形成すると共に、切り取った際に最も大きいサイズのものと同一寸法となるべく、上下左右の四方向にミシン目を設けたことを特徴とする。

【0016】上記構成により、印刷用台紙の上下左右の四方向にその端部まで印刷をする場合、印刷しろの部分まで印刷されるため、端部で印刷が切れることがなくなる。

【0017】第6の発明に係る印刷用台紙は、上記第1乃至第3のいずれかの発明に係る印刷用台紙において、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上下方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を設けたことを特徴とする。

【0018】上記構成により、上下方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷し

ろの部分まで印刷され、上下方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0019】第7の発明に係る印刷用台紙は、上記第1、第2又は第4の発明に係る印刷用台紙において、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、左右方向の一方又は両方に、1ないし複数のミシン目を設けたことを特徴とする。

【0020】上記構成により、左右方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷され、左右方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0021】第8の発明に係る印刷用台紙は、上記第1、第2又は第5の発明に係る印刷用台紙において、切り取った際に上記背表紙やラベル等のうち最も大きいサイズよりも小さなサイズのものと同一寸法となるべく、上下左右の四方向に、複数のミシン目を設けたことを特徴とする。

【0022】上記構成により、上下左右の四方向に最大ではないサイズの背表紙やラベル等を作成する場合は、そのサイズのミシン目を基準にして印刷等を行う。この場合、基準にしたミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷され、上下左右の四方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0023】第9の発明に係る印刷用台紙は、上記第1乃至8のいずれかの発明に係る印刷用台紙において、印刷面と反対の面に接着層を設けたことを特徴とする。

【0024】上記構成により、印刷用台紙に必要な情報を印刷や手書きして所定大きさに切り取ったあと、裏面の接着層によって所定場所に貼付する。

【0025】第10の発明に係る印刷用台紙は、上記第1乃至第9のいずれかの発明に係る印刷用台紙において、上下方向のある1組のミシン目の間隔、又は上下方向いずれか一方のミシン目とこれに相対する方向の上下辺のいずれか一方との間隔は、上記背見出しやラベル等の高さ方向のサイズに対応することを特徴とする。上記構成により、ミシン目の間隔を背見出しやラベル等の高さに合わせることで、その背見出し等に対応するミシン目の外側が印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷されることで、上下方向の端部で印刷が切れることがなくなる。第11の発明に係る印刷用台紙は、上記第1乃至第9のいずれかの発明に係る印刷用台紙において、左右方向のある1組のミシン目の間隔、又は左右方向いずれか一方のミシン目とこれに相対する方向の左右辺のいずれか一方との間隔は、上記背見出しやラベル等の幅方向のサイズに対応することを特徴とする。上記構成により、ミシン目の間隔を背見出しやラベル等の幅に合わせることで、その背見出し等に対応するミシン目の外側が

印刷しろとなり、その印刷しろの部分まで印刷されることで、左右方向の端部で印刷が切れることがなくなる。

【0026】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を図1を参照しながら説明する。なお、図1(A)は何も印刷していない印刷前の印刷用台紙1を示している。図1

(B)は幅3cmの縦置A4のファイルの背表紙を印刷した印刷用台紙1を示している。図1(C)は幅5cmの縦置A4のファイルの背表紙を印刷した印刷用台紙1を示している。

【0027】本実施形態に係る印刷用台紙1は、図示するように、ファイルの背表紙として用いる台紙である。この印刷用台紙1の寸法は、例えば縦置A4ファイルの最も大きいサイズに対応して設定されている。すなわち、適用対象としている複数のファイルの中で最大のものの背表紙よりも少し大きく形成され、最大の背表紙と同一寸法の位置に最外側のミシン目2Aが設けられている。このミシン目2Aの外側が印刷しろとなっている。また、そのミシン目2Aの内側には、適用対象の複数のファイルの背表紙の大きさに対応した位置にミシン目2が複数本設けられている。

【0028】ミシン目2Aの外側に印刷しろを設けることで、最大サイズの背表紙に合わせて印刷したときに背表紙の縁部付近で印刷されない部分が生じるのを防止している。また、最大サイズ以外の小さい背表紙の場合は、その背表紙の大きさに対応したミシン目2の外側が印刷しろとなる。最外側のミシン目2Aの内側に配設される複数本のミシン目2は、各種の大きさの背表紙を重ね合わせたように、重疊的に配設されている。具体的に、図1(A)において横方向のミシン目2のうち、ミシン目2Aが縦置きA4ファイルに、ミシン目2Bが縦置きB5ファイルに、ミシン目2Cが横置きA4ファイルに、ミシン目2Dが横置きB5ファイルにそれぞれ対応している。縦方向のミシン目2は、各種の厚さのファイルに応じた寸法に設定される。

【0029】各ミシン目2は、印刷用台紙1の裏面(印刷される面と反対側の面)にまで穴が貫通しないように設定されている。さらにこのミシン目2としては、マイクロミシン目といわれる微細なミシン目が用いられる。このミシン目2を貫通穴にしないことで、印刷又は手書きされた文字やデザイン等のインクが反対側の面にまで滲まないようになっている。これにより、表面(最初に印刷しようとする面)への印刷等に不具合があった場合に、裏面(表面あるいは最初に印刷しようとする面の反対面)を使用して、印刷をやり直すことができるようになっている。また、ミシン目2をマイクロミシン目とすることにより、ミシン目2を覆って印刷された文字等にミシン目2の筋が入って文字等が見えにくくならないようになっている。

【0030】印刷用台紙1には種々の情報が印刷され

る。図1 (B) (C) の例では、上部にマーク、その下側にファイルに収納される資料の内容、更にその下側にファイル全体の中での本ファイルの分類番号等が印刷されている。これ以外に、配列順番が決まっている複数のファイルの順番を特定するための一連のデザインや記号等が印刷される場合もある。さらに、大きな1枚の風景写真等をそれぞれのファイルの大きさに分割し、ファイルの配列順番に合わせて印刷される場合もある。

【0031】 [動作] 以上のように構成された印刷用台紙1では、次のようにして背表紙が作成される。

【0032】印刷装置においては、印刷する文字、記号、風景等の情報を入力し、それらのレイアウトを特定する。さらに、ファイルの背表紙の大きさを特定する。例えば、図1 (B) の幅3 cmのA4縦置きファイルや、図1 (C) の幅5 cmのA4縦置きファイル等に合わせて背表紙の大きさを特定する。

【0033】印刷用台紙1は印刷装置にそのセンターを合わせて装着される。これにより、印刷する文字等が、指定したレイアウトでかつファイルの背表紙の大きさに合わせた大きさで、印刷用台紙1に印刷される。この印刷において、切り取りの目安となるマーク（いわゆるトンボ）3が印刷される。このトンボ3は、印刷用台紙1が必要な大きさに切り取られる際に除去されて、背表紙側に残らないようになっている。

【0034】印刷し終わった印刷用台紙1は、トンボ3の部分に位置するミシン目に沿って折り曲げられる。これにより、印刷用台紙1は折り曲げたところから切れて、対象ファイルの背表紙ができあがる。この背表紙はファイルの背表紙用のポケット部に挿入される。

【0035】なお、手書きで文字等を印刷用台紙1に書き込む場合には、印刷用台紙1のセンターに沿ってファイル内容等の情報を記載する。次いで、ファイルの背表紙の大きさに沿ったミシン目2から折り曲げて切り取る。これにより、対象であるファイルの背表紙ができあがる。

【0036】また、印刷や手書きした内容に不具合が生じた場合は、その印刷用台紙1の裏面を使用する。この場合、ミシン目2が貫通穴でないため、インクが反対の面に滲むことがなく、新しい印刷用台紙1と同様にして使用することも可能である。

【0037】 [効果] 以上のように、印刷用台紙1に必要な情報を印刷又は手書きした後に、印刷用台紙1をファイルの背表紙の大きさに合わせたミシン目2で切り取ることで、単一の印刷用台紙1で種々の大きさのファイルの背表紙を容易に作成することができる。

【0038】ミシン目2は微細なもので、印刷や手書きした部分に印刷結果に支障を来すようなミシン目2の筋が入ることはない。このため、作成してファイルに挿入した後の背表紙は外観上、ミシン目2のない通常の背表紙と比較しても、外観上何ら変わりがない。

【0039】ミシン目2は印刷用台紙1の表裏面間を貫通していないため、表面に印刷したインクがミシン目から裏面に滲むことがなくなる。このため、表面に印字や手書きした内容に不具合等がある場合、裏面に印字等やり直すことができる。

【0040】印刷用台紙1には印刷しろを設けたので、印刷用台紙1の端部又は縁部付近で印刷内容が途切れてしまうことがなくなり、印刷用台紙1全体にわたったデザインを施すことができる。

【0041】 [変形例]

(1) 上記実施形態では、印刷用台紙1の中心を基準として、上下に縦置A4、縦置B5、横置A4、横置B5の寸法に合わせたミシン目2A、2B、2C、2Dを設けると共に、横方向に適宜ファイルの厚さに合わせたミシン目2を設けたが、図2に示すように、横方向両側に等間隔（例えば10 mm間隔）に広がるミシン目2を設けてもよい。

【0042】また、縦方向及び横方向のミシン目2を、印刷用台紙1の端部を基準にして配設するようにしてもよい。図3に示すように、上下に設けられる横置B5、横置A4、縦置B5、縦置A4の寸法に合わせたミシン目2A、2B、2C、2Dを、印刷用台紙1の下端部を基準にして上方に広がるように配設してもよく、その逆に印刷用台紙1の上端部を基準にして下方に広がるように配設してもよい。

【0043】さらに、印刷用台紙1の横方向又は縦方向の一端部（図3においては左端部又は下端部）を基準に他端方向（図3においては右方向又は上方向）に広がるように配設してもよい。

【0044】ミシン目2が左端部を基準に右方向に広がる場合は、図2のミシン目2が例えば10 mm間隔で両側へ広がるのに対して、図3では例えば20 mm間隔で右側へ広がる。ミシン目2が右端部を基準に左方向に広がる場合も同様である。

【0045】ミシン目2が下端部を基準に上方向に広がる場合は、図2のミシン目2が例えば14 mm、20 mm、20 mm間隔で上下へ広がるのに対して、図3では例えば28 mm、40 mm、40 mm間隔で上側へ広がる。ミシン目2が上端部を基準に下方向に広がる場合も同様である。

【0046】さらに、これらのパターンを組み合わせてもよい。即ち、ミシン目2が印刷用台紙1の中央部から上下左右へ広がるパターンと、上下左右の一方から他方へ広がるパターンとを組み合わせてもよい。これ以外の組み合わせパターンでもよい。この場合、例えば、背表紙のパターンと後述するCD等のラベルのパターンとを組み合わせるようにしてもよい。

【0047】これらの組み合わせにおいては、それぞれのパターンを区別するために、各パターンのミシン目を色分けしたり、ハッチングを入れたりしてもよい。

【0048】 以上の場合も、前記実施形態同様の作用、効果を奏することができる。

【0049】 (2) 上記実施形態では、ファイルの背表紙を作成する場合について説明したが、本発明はこれに限らず、CD、MD、FD、MO、カセットテープ等の表紙、分類表、ラベル等を作成する場合にも適用することができる。この場合にも上記同様の作用、効果を奏することができる。なおこの場合は、図4に示すように、CD等のうち最も大きいものに合わせて印刷用台紙が作成され、ミシン目がCD、MD、FD、MO、カセットテープ等のそれぞれの寸法に対応した位置に設けられる。具体的には、表紙や分類表等としてケースに装着される場合と、ラベルとしてメディアに直接に貼付される場合とがあるため、それぞれの寸法に合わせてミシン目が設けられる。図4においては、印刷用台紙の中央下端部を基準にして上方の周囲へ広がるようにミシン目が配設されており、そのうちミシン目11A、11BはCDケースに装着される表紙等であって、背表紙部分を含むものに対応する縦横のミシン目である。同様に、ミシン目12A、12BはCDケースに装着される表紙等であって、背表紙部分を含まないものに対応する縦横のミシン目である。ミシン目13A、13Bはカセットテープのケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目14A、14BはMOケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目15A、15BはMO又はFD自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。ミシン目16A、16BはMDケースに装着される表紙等に対応する縦横のミシン目である。ミシン目17A、17B（なお、ミシン目17Bはミシン目16Bの一部となっている。）はMD自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。ミシン目18A、18Bはカセットテープ自体への貼付用ラベルに対応する縦横のミシン目である。

【0050】 この印刷用台紙の裏面（印刷面と反対側の面）には、貼付用ラベルとしての機能を持たせるために接着層が設けられる。なお、表紙や分類表等として使用する場合は接着層を必要としないので、表紙等として使用する場合と、ラベルとして使用する場合とで分けてもよい。即ち、表紙等としてのみ使用する場合には図5に示すようにミシン目を設けて接着層を設けず、ラベルとしてのみ使用する場合には図6に示すようにミシン目を設けると共に接着層を設けるようにしてもよい。

【0051】 これにより、印刷用台紙は、必要な情報が印刷や手書きされたあと、CD等の大きさに合わせてミシン目で切り取られ、CD等のケースに装着されたり、裏面に設けられた接着層によってカセットテープ等に直接貼り付けられたりする。

【0052】 また、これ以外にも、箱、袋、ノート等の、物や情報を整理、収納するためのものであれば、本発明を適用することができ、前記実施形態同様の作用、

効果を奏することができる。

【0053】 さらにこの変形例の場合もミシン目を、印刷用台紙の中央を基準に周囲へ広がるように配設したり、一端部を基準に他端部へ広がるように配設したりしてもよい。

【0054】 (3) 上記実施形態では、印刷用台紙1にファイルの内容や分類のための情報等を印刷したが、これ以外に、A4ファイルの場合の印刷基準位置、B5ファイルのための印刷基準位置、左詰印刷の場合の印刷基準位置等を示すマーク等の他の情報を印刷してもよい。

【0055】 (4) 上記実施形態では、ファイルの背表紙となる大きさを表すものとして、切り取りの目安となるトンボ3のみを印刷したが、このトンボ3と共に、全体の大きさを示す枠線を印刷してもよい。

【0056】

【発明の効果】 以上、詳述したように本発明によれば、次のような効果を奏する。

【0057】 (1) 印刷用台紙に微細なミシン目を背表紙等の大きさに合わせて重畳的に複数本設け、必要な情報を印刷又は手書きした後に、印刷用台紙をファイルの背表紙の大きさに合わせたミシン目で切り取るので、単一の印刷用台紙で種々の大きさのファイルの背表紙やCD等のラベルその他を容易に作成することができるようになる。

【0058】 (2) ミシン目は微細で、印刷や手書きした部分にミシン目の印刷結果に支障を来すような筋が入ることはないので、作成後の背表紙やラベル等は、ミシン目のない通常の背表紙等と比較しても、外観上何ら変わらない。

【0059】 (3) ミシン目は印刷用台紙の表裏面間を貫通していないため、インクがミシン目から裏面に滲むことがなく、印刷用台紙の表面で印刷ミスをした場合でも、裏面に印字等をやり直すことができる。

【0060】 (4) 印刷用台紙には印刷しろを設けたので、印刷用台紙の端部又は縁部付近で印刷内容が途切れてしまうことがなくなり、印刷用台紙全体にわたったデザインを施すことができる。

【0061】 (5) 印刷用台紙の裏面に接着層を設けたので、ラベル等として任意の場所に貼り付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 何も印刷していない印刷前の印刷用台紙及び背表紙の内容を印刷した印刷用台紙を示す模式図である。

【図2】 第1の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図3】 第2の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図4】 第3の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図5】第4の変形例に係るパターンのミシン目を設けた印刷用台紙を示す模式図である。

【図6】第5の変形例に係るパターンのミシン目を設け

た印刷用台紙を示す模式図である。

【符号の説明】

1：印刷用台紙、2：ミシン目、3：トンボ。